枚

六年

画数 8
筆順 木 枚
オン マイ
クン

成り立ち

手に棒を持った形を表した〝攵〟と、〝木〟とを組み合わせて作った字です。

「手に持つ棒として手ごろの大きさの木」を表した字です。「小さな木の〝みき〟」や、「大きな木の〝えだ〟」のことです。

これを数えるのに、「一枚、一枚……」と言いましたが、今では、「うすくて平たい物」を数える時に言います。例一枚の紙、二枚の皿、三枚の板切れ。

また、田や畑の一区画も〝一枚〟と数えます。例田が一枚、畑が二枚ある。

使い方

▽わたしは、書道塾に通って、毛筆習字を勉強しています。塾で習うのは一週間に二時間だけですが、家では毎日、半紙に十枚は書いています。

▽ぼくは空手の道場に通っています。先生は、板を十枚も重ねたものを、空手一発で割ってしまいます。ぼくはまだ一枚でも割ることができません。

熟語例

▽十枚（今の〝十本〟という言い方に当たる言葉ですが、わが国では、紙や板や皿などのように、うすくて平たい物を数えるのに使います。）

▽枚挙（一枚、二枚と言って、一枚ずつ数え挙げること。この「一枚、二枚……」は、うすくて平たい物を数える数え方ではなくて、もっと広く使われる数え方です。例枚挙に暇が無い〔たくさんありすぎて、とても数え切れない〕。）

▽大枚（「たくさんのお金」のこと。昔は、大判、小判を一枚、二枚……と数えましたので、「たくさんの大判、小判」のことを〝大枚〟と言いました。例大枚十万円を投じて買いました。）

幕

六年

画数 13
筆順 莫 幕
オン マク・バク
クン

成り立ち

日が草原にしずんで「見えなくなった」ことを表した〝莫（漢音はバク）〟と、〝布〟の意味を表した〝巾〟とを組み合わせて作った字です（参考〔墓 年5 818〕）。

「外から〝見えない〟ように、布で囲うこと」を表した字です。「視野をさえぎるための大きな布」のことも言います。

芝居では、舞台に幕が下りていて、幕が上がると芝居が始まり、終わると幕が下ります。それで、「物事が終わる」ことを「幕になる」という言い方をします。

使い方

▽ぼくたちの先生は、社会科の学習に、先生が作製した映画をよく使います。暗幕で暗くなった教室は、まるで映画館のようです。

▽徳川幕府は、三百年近くも続きましたが、徳川慶喜の大政奉還により、その幕を閉じました。

熟語例

▽暗幕（へやを暗くするために使う黒い幕）

▽開幕（芝居の幕が開くことで、「芝居が始まる」意味ですが、広く「物事が始まる」意味に使います。例オリンピックの開幕も間近になりました。）

▽閉幕（芝居が終わって幕を閉じること。広く「物事が終わる」意味に使います。）

▽煙幕（戦争で、敵から目をさえぎるために発煙筒をたいて出す煙の幕。相手にこちらの真意をつかまれないようにすることを「煙幕を張る」と言います。）

▽幕府（「幕を張って作った役所」という意味の言葉です。征夷大将軍が政治を行う役所のことですが、もと戦場で、将軍の居所を幕で囲ったことから〝幕府〟と言うようになったものです。）